

# 平成20年度 教師海外研修 (派遣国：マレーシア) 実践報告書

1. タイトル 持続可能な開発をマレーシアから考える
2. 氏名 杉浦 真理
- 学校名 立命館宇治中学校高等学校 担当教科 社会科
3. 実践科目 政治経済 時間数 4時間
4. 対象生徒・学年 選択高校2年生 対象人数 12名

## 5. カリキュラム案

### (1) 実践の目的

地球環境問題の課題として、「持続可能な開発」が大切になっている。人類の発展と共に、自然との共生なくしては、次世代の生存も危ういのである。一方、途上国の人々は当然生活を改善する権利を有している。この接点に立って、問題を考え矛盾する立場を考慮にいれつつ解決策をめざす地球市民としての生徒を育てることを目的とする。

### (2) 授業の構成案

時限・テーマ・ねらい	方法・内容	使用教材
1限目 テーマ 私たちの暮らしとマレーシア	(1) フォトランゲージでマレーシアの人々の生活を議論しあう。 (2) パーム油と生態系の保存を考えるロールプレイ。 マレーシアとのつながりを考える。	(1) マレーシアで収集した写真、雑誌、通貨等 (2) ビデオ「宇宙船地球号」
2限目 テーマ 持続可能な開発アプローチ例	パーム油のみに、頼らない開発を考える。JICA、NGOの例をあげる	マレーシアで収集した写真と杉浦のホームステイ経験を語る
3限目 テーマ バイオ燃料は地球にやさしいか	(1) 「バイオ燃料」DVDを見せ、地球に環境負荷の少ないエネルギーについて考えてもらう。 (2) 持続可能なエネルギーの知識を活用したシティズンシップ教育を行う。当事者性	(1) 「バイオ燃料」DVD (2) 意見表明シート

	を育む。グローバルな課題とローカルをつなぐ視点をもつ。	
4 限目 テーマ ボルネオ トラストって何？	(1)株式会社サラヤさん、もしくはトラスト（NGO）の方に、ゲストスピーカーとして来てお話を聞く。 (2)生徒から質問を出してもらい、持続可能な開発を考える。（09年2月実施予定）	(1)パワーポイント (2)質問シート

### 第一時 私たちの暮らしとマレーシア（持続可能な社会を考える その1）

<フोटランゲージ（10分）>\*マークは生徒に書き込ませる

写真から読み取れることを生徒に表明させる。写真1（\*国立博物館の壁）

写真2（\*オランウータン） 写真3（\*ゴミ捨て場）

写真4（\*熱帯雨林の写真）

写真5 アイス、ポテトチップス、洗剤、カップ麺を見せる（\*アブラヤシの実）

写真6（\*アブラヤシプランテーション）

<ビデオ「宇宙船地球号」（10分）観る >登場人物に着目するように指示する。

（\*消費者 \*WWF（NGO）兄弟 \*農園主 \*マレーシア政府）でロールプレイ（10分）

<パーム油と持続可能な開発 ロールプレイ>

「この開発と環境破壊の問題をどう解決したら良いか」

登場人物

\*日本の消費者

私は高校生、ポテチ、アイスクリーム大好き、こんなおいしいものが安く手に入れば、友だちと放課後が幸せ。それで、マレーシアの人も豊になればなお良いのでは。でも、温暖化や環境破壊は困ったものどうしたら良いかな。ゾウも助けたい。

\*WWF（NGO）兄弟

僕たちは、マレーシア生まれで、ゾウといっしょに過ごしてきた。こんなかわいいゾウが、罠（わな）にかかったりしてかわいそう。政府も協力して、ゾウを助けて欲しい。でも、知り合いの農園主のくらしも大事だし困った。

\*農園主

私は丹誠（たんせい）込めて作ったパームやしを、ゾウに荒らされて怒っている。これでは生活ができない。日本の消費者にも良い油を届けたい。でも、ゾウを救いたいけど、開発もがんばってという政府は信用できないかも。

\*マレーシア政府

困った。困った。地球環境を保護するのは森林局の仕事だし、開発局は、プランテーションを増やそうとするし調整できない。NGOの兄弟を手伝って、ゾウをとりあえず助けよう。でも、農園主から生活の保証を求められたらどうしようか。

<ランキング シート使ってこの問題解決のあり方をグループワーク（15分）>

- 1) パーム油が使われている商品を使わない、買わない (By T. Arakawa)
  - 2) 環境保全型プランテーションに転換する
  - 3) プランテーション周辺環境の保全のため、日本の ODA を給与する
  - 4) 化石燃料の使用量を減らすために、積極的にパーム油を使う
  - 5) 勉強会を開いて現状を知り、解決策を考える
  - 6) 企業と話し合っパーム油を商品に使用する際の基準を作る
  - 7) パーム油を取り巻く課題に取り組む環境保護団体 (NGO) に参加する
  - 8) 生産者、プランテーション経営者、生産国政府にまかせる
  - 9) 出来るだけ多くの人にパーム椰子を取り巻く問題に関して知ってもらう
- 最初に個人ワーク→グループワーク、それからグループワーク、そして全体シェア

<ふりかえり（5分）>

**この授業で何を考えましたか**

いろいろな利害関係者がいて、それぞれの立場の人に、みんなうまくゆく方法は難しいと思いました。(S)

自分たちが何も気にせず食べたり使っているものの裏側には深刻な問題があると思った。(K)  
ゾウとわたしたちの暮らしに関わることだから、お互いの立場に立って物事を考えてゆかないといけないと思った。(K)

**「マレーシアとのつながり」は理解できましたか**

**?なぜ「つながり」が見えづらいのでしょうか。**

普段使っている商品などがどんな過程をへて僕たちの手に入るかがわかりづらい。(Y)  
理解できた。日本とマレーシアの交流を深くしたい。(A)

**君たちのグループワーク（ロールプレイ）の成果は**

ゾウの生活の場とアブラヤシのプランテーションの場所をわけるという結論。

## 第二時 私たちの暮らしとマレーシア（持続可能な開発を考える その2）

前回のふりかえり（上記、コメントをシェアした）

<JICA の取り組み（\*ODA）15分>

- \*エコツーリズム（写真） 熱帯雨林を生かした先進国むけ自然体験学習を行う。
- \*BBEC II ラムサール条約を使った熱帯雨林の保全、マレーシアサバ州政府の開発、環境保全の局をつないだり取り組む

<<NGO の取り組み20分>>

\*ボルネオ・トラスト（ナショナル・トラスト）ゾウやオランウータンの居住地の買い取り活動

<企業の取り組み10分>

- \* 企業（サラヤ）の努力（エコラベル化）（時間があれば、宇宙船地球号ビデオを観る）

持続可能な開発に、企業も努力。

ふりかえり（5分）

**この授業で何を考えましたか** 環境と開発のジレンマを越える方法

サラヤさんがやっていることをみんなに知ってもらってゾウを助けたい（Y）

企業が人間のことだけではなく、環境や生物などについても考えてきたということは共存に  
一歩近づいたということと言えるのではないか（U）

**マレーシアとのつながりが見えたか、なぜつながりが見づらいのか**

だいたい理解できた。知る機会がないし、大人も子どもも、製品（商品）が「どうやってつ  
くられるかだろう」と疑問をもたないから（K）

### 第3時 私たちの暮らしとマレーシア（持続可能な開発を考える その3）

前回の確認（プリント裏）「バイオ燃料」（DVD）（右紙にメモを取りながら）（15分）

グループワーク（5分） バイオ燃料は地球環境、人類の生存に良い点

バイオ燃料が地球環境、人類の生存に悪い点

「バイオ燃料」（DVD）ワークシートに記載してもらおう（5分）

エネルギーの\*自給自足

（以下ワークシート）

バイオ燃料ってなに？

2種類のバイオ燃料とは バイオディーゼルと バイオエタノール

バイオ燃料の原料は何？ カーボン・ニュートラルって何？

バイオ燃料は環境にやさしいのか

二酸化炭素の収支は？ エネルギー効率は良いか？ 森林（熱帯雨林はどうなっているか）

<ふりかえり（5分）>

<<選択課題>>本日の授業から得た知識「持続可能な社会でのエネルギーのあり方」から  
考えてみる。（1or2を答えてみましょう）（10分 意見交換10分）

**1 車社会への改善を考えてみる。**

（道徳ではないので、社会のしくみや技術のあり方を問います）

私たちは \_\_\_\_\_ とすべきである。

私は \_\_\_\_\_ をしてゆきたい。

<ふりかえり（5分）>

**この授業で何を考えましたか**

単に人ごとでなく、自分のこととしてエネルギーと環境の両立を考えた（A）

移動距離を少なくするエネルギーの考えは、食糧の自給問題と似ていると思った（K）

### 第4時予定 私たちの暮らしとマレーシア（持続可能な開発を考える その4）

<サラヤさん（ボルネオ・トラスト）の報告>

「持続可能な開発」とは ボルネオ・トラストの有効性

## <生徒からの質疑応答> この間のシリーズ授業のまとめ

### 授業を行ってみて

**所感:** 予想以上に生徒がよく聴き考えたワークショップ形式の良い授業になりました。(株)サラヤのボルネオ保全トラストのことが、女子生徒のスマトラ象を助けたいという思いにフィットし、授業後の別の課題でも、その応援を考えたいと、2学年の学年企画に発展しそう、どのような自治的な取り組みになるのか楽しみです。

**反省点:** パームプランテーション自身の見学や、現地経営者や労働者にインタビューできていればもっと深まった内容になったのではと思います。後、授業内容についての事前準備をもう少し取るべきだと思いました。また、さらに時間があれば、この授業の内容を生徒が家庭に持ち帰り、家庭でもランキングをしてみるとか、社会科の課題だけでなく、地球市民を育成することに主眼をおいた働きかけができれば、もっと面白いのではと思います。

**今後の課題:** 必修選択の科目の授業ではなく、正規の学年必修の授業、例えば高1（現代社会）等に授業を何時間でも組み入れられないか、どうかを検討してゆきたい。たぶん、中3の公民でも十分に（バイオ燃料を除いて）授業として成り立ちます。

### 参考資料

JICA 研修中に収集した写真

BBEC II の現地でいただいた資料

岡本幸江編『アブラヤシ・プランテーション開発の影』（日本インドネシア NGO ネットワーク 2002）

テレビ番組宇宙船地球号「ボルネオ像と私たちの暮らし」

荒川共生 2008年3月滋賀県のワークショップ（JICA 滋賀デスク）

『モノのこし方行く末』（京都自由学校 2001）

ボルネオ保全トラスト BCT（HP）

DVD「バイオ燃料」（PARC 2007）